

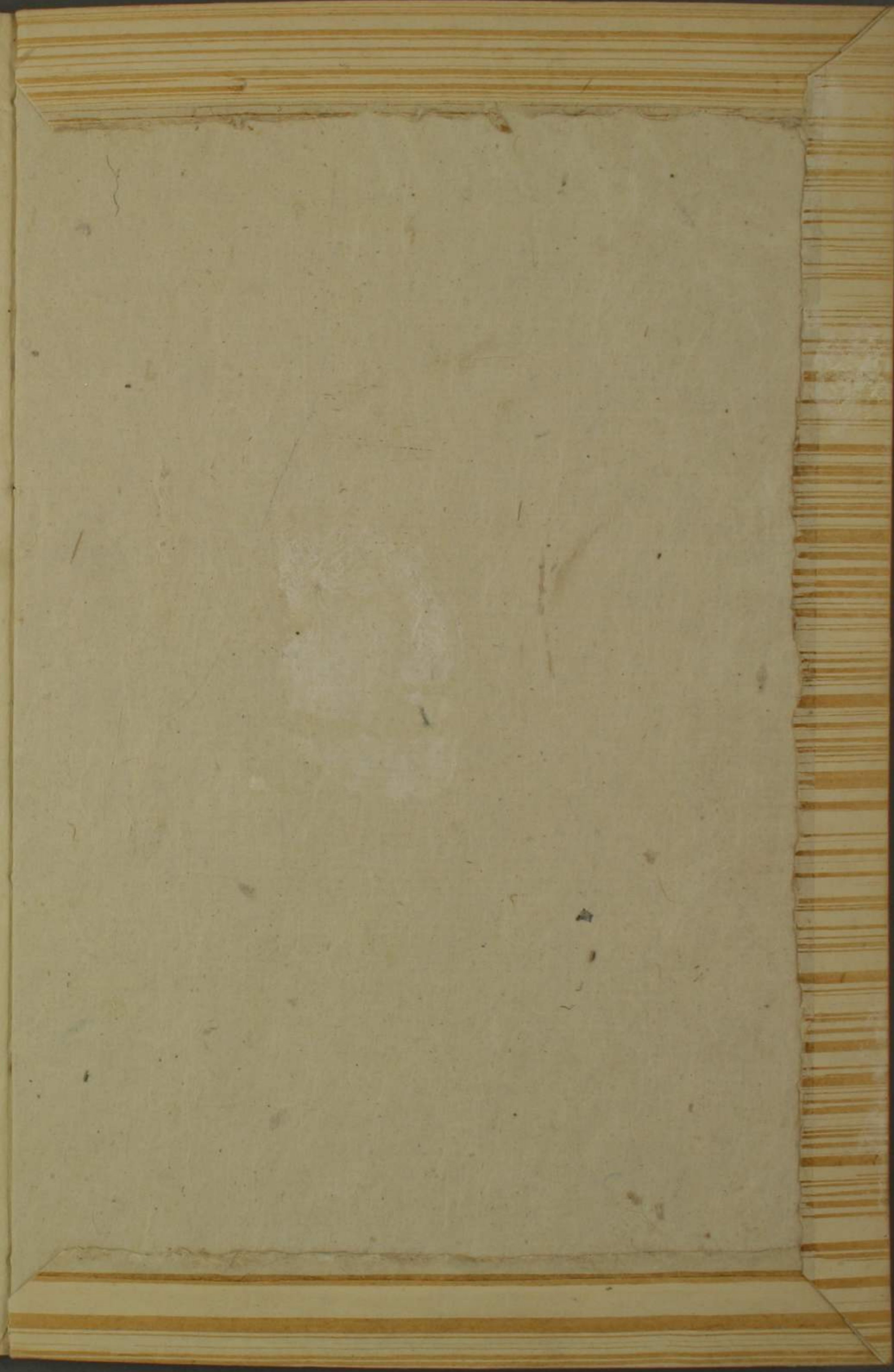


ル 2
3097
11



1875
1875

1875
1875



門 2
流 3097
卷 11

日本行紀

第二十五篇

箱館の記

「サンカル」地名の濱

霧の危き事

蝦夷嶋

箱館の港

二度「ギブラルタル」地名に到る事

町の形状及び生質

漁

早稲田 大学 図書
昭和 26 2. 5
蔵 茶

住民の數馬

魚鳥

砂利

我住家

「スウイワラント」も等しき事

火消丁 年々老るる兵卒

日本人の愛もつき事

宮

箱館の推考

日本

箱館の港蝦夷島千八百五十五年五月十六日晝中

「トリヒラキ」岬を巡り日本の北東の出崎及び日本

と蝦夷を離れ「サカガル」松前と洋輕との間をの所を「マ

キリ」岬の所々も瀨をとふれ或は又水中に陰を

又の巖しき塊の形上も横りあり○強き浪有

一時「イキリ」里敷より四五里東西を傳ひ北西

の方へ流き又北西の浪の東南の方へ流る此水流

道は就裡^{ナラシ}澤露の時あり五月六月七月の各

海邊甚著し其の海水の流道節を知り以航海

せる人の名も甚くあやうき事あり「ロイテナ」

官の「ベント」及び「ロウ」君と我との「コムモドレ」官名
命入るる深遠高サを十字に測量する故に日の
光りよ見ゆる間暇ありむわりのみまに不意
に霧降り諸方見えなすりし時刻早き
に休息を事問ありむわりの月十七時の
間に見えさるる續き「ロイテナント」官名「ベン
トロウリ」氏及び余の「コムモドレ」の命よりよろこん
る測量を及び十字測量をありし諸處の高サを
測るるを勉めり然るに日暮るるを勉めたりし
此海の淵サ第三月あり大抵七時を續きしに

くあり○魚あり日將サに沈んて忽
ち霧かたきに連るに此事を休たりき
十七日朝霧大抵八時あり猶霧やうされし吾
徒皆船の物を抵觸せんを勉めり居る
ん其預備の常法に股行せり○天氣稍霧人
をよ及る吾徒「ミスレスヒ」船名「ホーハッタ」の
後半里許を見り而して「ホーハッタ」の艦より「ミ
スレスヒ」へ「コムモドレ」の船路に攻き進むつき
事号報せり是即吾徒海峡を運進せし
路あり一時過る吾徒平行に斗出せる地尾に

當り起せる長き人のとき嵩山と見せり其後
の方も當り前も進みたる船の檣の見へたり○
此より節旗を立る艦より一鏡を鳴して舳櫓
此猶よ「ユニー」の小旗を引き揚げしり「測量暗
号」而、吾徒大抵「イキリ」里法の三里も近づきたり
一時よ「マセドニア」南「アムフトン」ハセタリア」の三
船吾方へ下り来るを看たり○南「アムフトン」ハ
最先も吾船と違し而も餘の二船ハ「ミエツヒ」
へ向へり猶未夕日中も呈りさる前も最上ある
箱館の港のりよ一守陣も碇を下りたり

惜むらくハ余「ギブラルタル」の港を唯書記回書
よ就て知るのみよ一も来るよ見さる事を然
まよ敷も其船山岸も到り諸將官や箱館の
其状費第二の「ギブラルタル」と名を得しよ
り○此位好しよ且唐も港其最も潤きあり
て大抵六里より七里もを越えよ其港門ハ其
濶二里若しよ三里以上よあり而も其底較
泥よ一碇を下る最上の地よ其周圍ハ
吾徒見よ其盡く嵩礁淺磯あり其港口の
水ハ第一級の大船も十分あり深サよ加る堤

より一里四分三の如きハ猶頗る深しとて而て
北方より蔓延したる沙帯ありハ港門に當
り大洋に向き保護せらるるなり○宜敷に此地
より大洋を見らるる者ありハ何者ハ港の門
口斜角に津輕の海湾に直達し並に其相對せ
る國の甚遠き距離多し其計數二十八里より三
十里まであり○其東南に當るハ此港所謂
小く申出せる地ハ閉塞あり其尾ハ所謂長
き人のとき出山の様なりとありけり而して其邑
ハ「ギブラルタル」の如き其脚下に軒を連たり

此邑察するに其家數四千より五千の間あり
ハ而して其徑ハ大抵二萬許なり其地形海
湾の周縁ハ大半石地多しとて然れども一分ハ
草あり平地あり○海濱より五里若くハ十里ハ
しつ連山あり其參差高低二千「フット」より
三千「フット」の間ありハ其地形ハ半月の形
に環抱し西に流るる其如しハ諸丘海壩に向て
愈近されハ愈低しハ尾に至れり○此諸山ハ其
低き丘より多分猶雪に蓋れり而して其
津滴止ツの小川ハ輪流せり其小川ハ各自の方向ハ

從ひ海灣に疏注しし處より諸船最上あり
清水を得しとき○諸川の沿ひに數多の村巷
あり其周圍に淤塗又草原をもあれ澳師の口
をしし誼譯ありしむる處もしし春の方此
川へ駈き鯨魚の其卵を卸さんしし上り來れと
あり○此澳村の口にも常の廣平なる場を設けお
きし澳洞の沙中に敷き鯨魚の長き木架よりけし
日よ乾せり○余其邊に竈の類の上を置し大
なる鐘を見し是煎汁を製するの用ゆる所よ
しし其内を網を投されし暗淡色しあり兼し

は其腐敗を防ぐあり○此時日本入る此業
を事しせり其澳時も當るあり○此相館の邑に
上よ所謂嵩山の脚下に在し其西大街海濱と均
き幅員もし終り其一は他より三十「フット」許高し
とも而し其西街も又多の支街ありし横貫し
皆山上を通せり○此裏大寺院四つありし其屋他
の屋よりも突出せり○邑の下方の屋も當りし小
き斗出たる地の邊に僅々ありし小島ありし二
の家も日本船を泊るし屋もあり「ロイテナント」
館「ベント」の當時「コムドレ」の「アシユタント」「ゼニア

ル」職を務めたりける「エルルス、イルリアムス」民及の
他の将官一二人を伴て箱館の鎮基より来れ
る日本官吏の訪問も答へ兼て華會を開く
為る預諸儀をとくることの爲も堤の方より去り
「余の快うらさるるもの有る故舟に降りて是を
差役の間々如此事も至りて件賸の始とす」港の
景色を圖篇する事をとせり余此事を爲其
隙も數多め入窄隘より急きて往返するを春
たり又一二を裝荷する駝馬をも見たり○ロ、テ
ナントヘント」帰来りて時々の帝國の官人の来々江戸

より来りたり此地位人吾不意に来り其
船數も最多多れと驚怖し多うか遁れ隠
れその冒人の財器を搬運したり○
然るる此謎の直に解知せられたり○
是蓋し三十三年前魯西亞の海軍甲比丹「ゴロ
ウイン」箱館の北方「イギリス」法より七八十里を
「クナシリ」より捕獲せられたる殘酷なることを
受たりければ甲比丹「リコルト」おれられたり此地
を暴亂したる一とて思ひおきたるあり○是
と同一千八百四十九年日本の海濱に漂着し

たゞ並豊利加船をもちも海酷も〜〜此地より
猶西〜〜三千里ふらりある時久〜〜満開〜
〜置たりあれも思らくは其まゆ〜入る其休を報
せん〜〜吾々徒の来り〜〜と思ひ〜〜ある〜
○上よ吾人〜使者を遣せ〜上よ吾々徒誰〜堤
り〜上よさ〜〜何故猶も其驚を増たる乎
然〜〜万事直ちも故も復〜たりけれ〜一二の
日本人より殊も箱館の鎮臺より船へ訪問を
受〜り

我輩日々「コッテル」船を泛〜〜魚を捕へり又余神
氣全〜爽快も復〜時「コムモトレ」余も命〜
余も此集の企ある〜ためも輕舸をひ〜海濱の
行き諸種の鳥を銃射せ〜めたり○茅五月の
地も秋〜の正當の月も非〜〜も十分も余も
望を遂たり○余稀ある養鳥を銃射せり我國
の穴窮理家のためも余も曾〜聞さる奇鳥を得
〜あるも自負せん○殊も愛玩も〜其喜〜養
麗ある一種の鴨〜〜頭上よ金光をひ〜緑
色の毛を戴き両翼も弓形の羽五本あり〜その
色黒灰〜〜白星あり者あり○其他余も一種の

水禽を銃射せり其鼻上角状の火息肉あり○
又雉子の小あり者鴨の非中ゆ大あり者小鴨乃
常も異あり者射より其小鴨大サ漸く四寸能
の許あり白色の胸緒黒の頸漆黒の頸銀白の
羽あり○又游膜を具へる最小の鳥あり余曾
く見たるあり物あり○又我輩順次定めて漁り
て其捕へる皆共駭く○重サ十五斤能の鱧
を捕へるも亦救回あり

余此地を縦横に錯行し一回浮所の中も落し
腰に至るまで沈めり同伴の兵士幸も堅地を在

り速に其持て手銃を延し余を救へり着
此人の知らぬに死に至ると疑ひあり○此
後此地におひて穢せんく穢する人あり此
前例を見し細き意を注ぐ其故は此の如き所
敷り所ありあり

余漢村を訪ふに家々皆閉せり其内一二家の
戸も釘しありあり○又鬼の畫像と
の畫を貼る者あり○此地目を視る活物此捨
る家を守る番卒二三人火敷足の
日本入と互ひの語より生きたる諸事三日

の後漸く静けり。○余は「プロウ」君と一
小寺を借り斯く居宿をあり。印象鏡の壁
置をみせり。

吾輩の通常の上陸場は石段を設けたる空洞
の石地より堅く塗壇せりあり。○此地は
水割の一邏舎^{パシヤ}を建一二室を構造し其廣大約二
十人の士卒を容る。○此上陸場は地峽の間
に数多の船繋泊せり。當時其敷を計ふる大
約二百隻あり。但し通常は是より多うらんを
の故に我輩出たよ来た時衆船多し逃避せり。

ありあり。○此邏舎通り短き横街と通り磯と
併行せる第一の本街に東れり。此街の濶さ大約五十
尺^{袖コト} ^{ド尺}あり。是は清麗あり家々好き構はし
く樽を設けたる者多し。又同坐席も店も開く
者多し。○其横街の第一の本街に併行せる此街に
此高き本街を通し且つ我輩の宿せる小寺乃
ち方々通も此寺の高き地を在り。市中及び港
内を自在に視るあり。寺の稍右ある狭巷を上
りし。前の本街より高き街に東り此街の殊
に富る人の住あり。

此家の屋を扁平より〜屋根を以て覆ひ其上
より長竿を置き更なる石を載り此上を二壁〜以て
風の吹散を妨ぐ。○外方より出たる高き椽を
棟上より在る家の周囲を繞る。○入口より木製の
き前室あり別より前の方より突出せる屋を以て覆
ふ此の屋より小柱在り是を持て且つ多くの巧
彫作を以て是を華飾せり此諸事を見て更
より雪際亜の家作を思ひ出せり。○家の宇屋の角
にあたり大なる水桶を置き此菓箒を附し長竿を
樹より余斯より至るの路をあらはし此の如き桶数多
有

〜屋の所より方置せり違ふ是を望めり恰も竈
の如く而して〜竈窓は他より視るよりあり。○又最大
此水桶在り戸前より守置せり恰も雪際亜の井の
如く。○其他家前の空地より自然の井有る桶を附
し長竿を備へ置り

一様の物を要するより一様の風習を起さる。○此海
岸の春秋二時の烈風は「マイル」ワルトス「タツテ」
湖上の「フロン」群を盡く吹飛し且つ月の甚寒
く〜屋上の積雪時有る一二尺袖のツアの高
一ド尺
より至る。○又街後の山下より幅一二百歩の森林有る山背

より轉下を「ライン」石の名をまう山下の諸
家を防護せむ

火災を預防せむの具上を述べたる如く、
とも然れ共是を以て足りたる難く其故今
猶燒亡の跡を殘せり多し、就中僅に十字を存
せし所ありあり。○此患を生ずる原因を尋じ、
一、木を用ゝ家を構造せし、あり一、室中より
火を熾ヲコせし惡習あり、一、野火を以て火鉢を用ひ
て毎一二の預防あり、之を備室中より布きたる原
き藁席上を置き或は紙障子及び窓障子停り置

あり。○此の如き敷多の災を見、此等患の原
を断り、是る。○又此府の諸方より火哨あり大抵
下回の火哨と同し其火哨の已も前も書記せり但し
余の視る所より、此府より、其使役の法
甚く密し、且善く編制せらる。○街の角
より、一根の楔を樹り、此より長二尺幅一尺厚二寸皆
尺の板を懸り、毎街亭の番士、鑿暗棍を
以て此板を打撃し、暗号を以て救火隊の
第一指揮指此危難の場所より、斯く其騎旗
を以て此時他の救火隊の来るを知らせ、此指揮指の預

亦むよ遊されえおれり振をよ寸事あり且又其右
領より地面の円よりあさるあり其故は火を鎮静を
るをいへ各隊の面目よりあはあり○あめ火哨
の士卒並のよ府中の諸史の陣中の如く編制し
腰より通常の二鞭を佩ひ入る甚く畏敬せしる然
しと被儕も其指揮使の許し頼され其佩
劍を使用せしを得し故も各高一鉄鞭を具首せ
り○此鞭は厚一寸長十二寸より十五寸振りまてよ
し其末は一箇の上より曲りしる鉤を着けしよて
刀劍を釣住を又此鞭に附する一總は具ひし蘭

系の勁索に此武器鞭鉄を花杖花杖の時に傳り
附するの用をよも○若衆人の駭擾せしおれり彼
儕此鞭をいへ甚く迅速に運用せし事英吉利
及び亞里利加之士卒の如く曾く衆人の集塞せし時
此鞭をいへ我輩のためよ屬し潤き道路を
開きあり
我輩箱館に滞在せし向下將を頼せし兵士二人あ
り我輩の弦具を守護せしる為の番兵しし我
軍の宿せし寺中も居宿せし其一人は先兵しして
且善人あり余りためし時々日本の戦術術を

試きたり○其略説も、心をきくも其制を記載
せる日本の書も、其の編二十篇、圖表收むる
所、○彼前も述ぶる鉄鞭をひく、屢々余々、操
る所の些、瑕なき整落せり、且つ、戦國の大
拳動を試みたり○彼の額も、頬も、刀痕、新
あり、以て其面の華飾とせり○彼兵伴中も在
る、是も善人、とて、尊敬せらる○我輩斯も在留
せる間、厚政府の命を受く、斥候と成り、招前も行
なり○彼曾て曰、某少年の時、良兵、とて、且、
田獵を好きたり、とて、今、五十餘歳の老卒あり、と

胸肝も、既も、強健あり、は、と、我輩の
居所及び製作場を、収め、役夫を、屬せ、或は
街上の人、群集する時、勇猛活発の、声を、
我輩も、自由も、濶路を、与へ、と、あり、胸肺も
些、妨障ある事、
其他此二人の、兵士の、細密な、意を用ひ、我輩の、許
すも、非され、人、と、我輩の、居室或は、製作場、
へ、あひ、若く、真像を、印写せ、人、なる、貴官の、
一人、居る、事、あ、れ、は、他人、と、い、ふ、事、あり、
は、一日日本の、一將、来、る、一事、を、告知せ、人、た、め、

我輩の室中よハまり然れとも何しの様ふや
く只戶外よ立子斯よて彼二人よ命一置より
箱館よ居住よ入ハ身材総て矮小あり其長を
度よも猶五尺彼のの人も間乏あり彼等我將校
及ハ士卒とも々々短小の人より長大の人と尊
敬をも更甚一〇余是も長身あり故も属ハ日
本人よ需れれ彼も身の長を比べ度れり余一
回箱館の鑛臺「ブongo」豊後と宿し時亦余も身
の長を度りて之を木柱に記割せり余彼の需
よ應一々我名を其下よ書をも其後之を日本

字よ書寫せり大の...二百又...二百
余此地の風習一二を猶會得よ時初め日本
の尊敬を更たり〇每人其礼法其の養たり人
各其僻あり雖又各自其身を慎み守り
松前の使者「カタ」何等の畧あり者あり予識也
且貴族の風あり其入實至の礼法正一各人
も亦彼のため礼法を守り「ブongo」豊後或は
「カランダブルゴ」後も折て亦同此の如く「ブ
ゴ」も數五千人歳よ一且仁意ある老人あり
「カランダブルゴ」は短小の男子よ一數大約三十

歳位あり勝れし騎馬を善きなり及び他の事件
も物とも亦カ量落彦を顕せり

人並意を注て蝦夷の居人をみるも其色日本極
南の居人の如く黒うらひ○此地も新て婦人を見

ることも遠く下田よりみせし○少婦一両人あり真
影と印字せんらため相共し我輩の所も未れ

り顔色艶美容姿温順し且つ袴節正し
き娘あり

此府中も数多の小寺院の外又四大寺あり其一
は彌まゝの廣大の寺あり方二百尺より二百

五十尺徳のあり種々の像を彫刻し夥しく之

を華飾せり此華飾せし像の三々者も視流の
像あり鶴及び亀あり然れども又他の獸類も

彫刻あり神あり兎牛馬猪龍等あり屋の斗由所
多々殊に飾り心く飾きり○此他一寺院あり日本

の「アエオリエス」神名未詳の一柱あり門の左方に風神あり

り肩より風臺を擔ひ右方に雷神あり身より赤雷
光を纏ふ我輩ころり浮在せる日暴風二日間

吹たり此寺も二人の僧あり鼻音をひく瘧りぬ
讀經祈念せり○最大なる寺の佛前より卓ハ「大卓

一脚小卓四脚」我邦の「カトレキ」教の寺の卓と其
の一致せり此一箇の卓上の一箇の假舎あり其内
に婦人の木像每野天の像あり頭上は女帽を冒せり
「エリサベツト」西洋の女王の名の像は異なりと云ふあり○此
府の正後より岩山あり高サ大約千五百尺彼の尺あり
山頂は勝れし眺望は宜し山北は箱館港及び箱
館府あり其後の屢述タル濶き溪あり三方は山
々圍閉せり其他山南の暗測は對し「サガレ」
港あり其磯は波多し静あり「サカレ」の海門
より對する南西の方より日本の高き地面を視る蝦夷

嶋の一地方の後より隱る此嶋は山岳夥し其頂は
雪を冒ふり拙麗なる眺望の首府松前あり
○此山の最頂より高十二尺の彼の佛像あり藤を
曲し坐禪するを見眼瞻せりてかきよす此亦も逆つくよに能き
道路あり木門數多し以て之を断切せり此信は
小像數多あり○大約三百尺彼のの高サの處より
一座の寺院を建構し二百尺の高サの處より第二の
寺院を建構し四五百尺の高サの處より第三の寺
院を建構せり

此山の南西の傾背より海の方より當る處より硫黄

と合めり冷泉あり其水の下利の功あり
余此麓山に登ると五回より少なりし第一の岨
港の景色及び全周の「ハノラマ」味をわきまらた
めも登り其岨より「ロイテナント」館「マウリー」館「ミ
エエツピ」館の將及び「ロイテナント」「プレブレ」各「ミ
トニア」館の將を伴ひ余も製菓したる園の一場所
を三角法より算したるためも登りたり。○此の頂
並に稍昇りて斗出せる地が二三所あり海の方
に當り此の麓割の邏舎を建構し日本人此の
より居り我軍の船を遠望せり但し今の廢して

之を守らりし。○此山の西の麓に新に築ける砲墩
あり大砲二丁備へばき並に火薬倉及び陣舎を
構へたり此の丁の砲の密を包み高く且小舎を以て
之を覆へり故に其口徑を細くし能はば然とも
二十四「ポイント」より大なりし此の砲の防
ぐための用を以てし如何とあれば日本が輕
艇此港に乘れり東の方稍深き処あり南より
小の流を以て砂洲の後に在り甚しき安全あり砲
泊の地も撃つ故に此砲墩及び他の峽端に築き
了る第二の砲墩を以て之を防禦せしむる有へり

らをも無れども我輩の火砲に討つて其功
ありらん

日本行紀

第二十六篇

日本を退去する事

入金化貨の事

器貝及び時規の事

日本人聲曲を愛する事

眺望の事

捕盗の事

狐狩の事

我輩下田に泊る事

下田の形勢を憂ふ事

日本領事官等と最後の應接の事

墓所の事

日本親睦の事

退去の事

我輩何等の事を致せしや又何等の事を
得たりしや

千八百五十四年 第六月「フレカット」船「ホウハタ」号
の船に於て記

金貨の値を定めんとす乃び日本人之の賣買を

容易せんとすための規定をなす○「アメリカ」の銀

「ドルラル」金貨の名四千八百「カス」「カス」は金貨或は金貨箱の義也斯くして銀は意

ハ、あつ美當を或は指圖の大銅貨當百四十

ハ、美當を此銅貨の正中の一方向を閉きし

常を以て通をも修を強健の男一人として此

銅貨の量十「ドルラル」の量程擔ふらん

金貨の値は之を對照するも銀貨の値よりりし

あつ百分の五あり○余塗器烟管磁器烟袋及

珍奇の小物品殊に東印度様の墨の勝れしとき

品を買ひ多り是の支那より運こも勝れし品あり此のとき小列店の市店より未タ良品の化貝物を運送せさる思ふ者あれし上運こる諸物を皆良品よし其下直ふる品あり

諸種の樂器を取く店あり磬の「ロイト」或「ミテル」竹の樂器の名の種類あり一箇の三系をばへ一箇の上系をばへ然れども管昂胸ありの覆の木を用しして薄き獸皮を用ふ昂南「アメリカ」の「ボーゲル」人種名の「ラニオス」樂器の名の「」○又弗割長の笛ろ七穴を開きて而し音を設をす其製法甚簡

易あり口孔及び指孔の大し我樂人の之を吹く強りは然れども日本人の之を吹て簡易爽快の妙音をかせり○又「テイロイル」シテル樂器の名の琴のも但其頸の甚し長し五本の鋼線を張り而細片木を拇指と食指の間よ持し之を玩弄せり

日本の時規を見よ長二尺幅六寸彼の尺すの箱を以て作り之を壁よめ此の「スタワルスワルテル」氏の鳴鐘は日一箱の上部よ一簧を巻き揚をるを以て此器の運行をなさしむる下細長

孔を開きし後十六箇の黄銅の蝶を置きと上
下八箇を五分しし箇を同等の距離を置きしむ
左側も第二の長孔あり斯に一蝶有し下より上
に運行しし但し京文の修り候も
以し時刻を指示せし八箇の大距離の畫の時刻を
示し八箇の小距離の夜の時刻を示し如何と
せし日本人の其日を十六時と分し八箇の大時八
箇の小時と分し其大時の夏の日出より日没まで
續き其小時の日没より日出まで續ししむ
あり○冬は此順序を轉倒せしむ○春秋の

日の長短ある時の竹等の法を以しと補ふ
や若彼日本の人々を全く斯の意を注しし其曆
年を同し兩半に分し以し其時刻の交換を
定むるも非ざるも余之を領解す

我輩の臺中時規箱此所は江戸港中
物より其の甚く珍奇とせられし江戸の諸貴
官等トキワリノシカタも臺中時規を具へり○然も我邦の
此方より倭をる昏の時と夜の時を別と示さし
也と也○日本人の多くは日規時を具へり也

時規の時を細密に指示をふり○衆人皆一小宮
を帯因に挿し其内を書記具日時規羅針盤
度尺の一種を細む及び時首の小象限儀をも
細めり

其他日本人の撃曲と島の高をならし「コムモ
ドレ」下田より我樂隊と伴ひ上陸せし時其
樂を徳人の名其府中軍に集まり其後樂を
奏せしむる上陸せしとき衆人被るの後も隨
ひ後々の談話をふり又更し樂を人あしを
預ふの意を解せしむ人せり此箱館より

亦此の如く我輩の船中より「王子オピセ」名樂人の

火伴の一種より南方の「プランターデー子ーケル」
西羅巴洲も運送する多き「コーヒー」樹皮の砂糖蔗と植
しる南「アメリカ」の「アムスターデー」と名新「子ー
ケル」人種の者住居し其草木を作るあり人の新舞を奏する者あり

一日「コムモドレ」「ホウハッタン」船の用より松前の
使者帝の領事官両人の「フエゴ」及び他の貴官
等も年叙を供せし時種々の緊要の法を撰定
せる此日本の衆客を満悦せしむるため我樂
隊より速く樂人等を相替り新舞を
奏せしめり此時使者日本の官人等毎に「クモクモ」

梅きよの笑
声おらん

く呼へり是は大満悦と顯由を尋ね
り○其後一二日を経て余山中に狩獵し常々
日本の兵士一人を伴へり此人我等曲中一曲の歌言
及び歌節と半々覚えり屢其曲の端々を教ひしり
時有ては十分秒節と由をことあり○余時々路
上より諺ひし時彼甚く悦笑ししを「クレク
レ」と呼ひしなり

余四河中の最大なる河渚に泊りし時最
速に路を進む故に大約九時の時を経て路に
多の鴨及び雉を銃射せり○此時甚く大なる

村家の山下に來り而して其兵士及余宿る旅棧
を故に我等兩人其地の指揮官「カミダ」の本店
に休憩せり此主人の懇誠ある老人なり我等
の米の餅漬も菜蔬善く焼きし薄く截りし
麵及び茶と饅頭を饗應せり但余斯く少許の場
酒を飲めばあの酒に至るの勝るを嘗味せし見
えり

其御導の兵士の余を山に携りしと止
むるも是を告げし其之れを止めし情願一に此山
の上より甚難き由り一に其岩穴中に多の徳

栖止せしむ曰きり ○然し其余も此行を三てし甚
多其然の栖止せしむ由もつる事心も余如此三息よ
う此一所も止せしむる事を知る事わら余も
其郷導も馬を給せり但し此時「カミダ」管轄の
近傍よ
里正等のみ如き者を指しし
ありし其土地の方言あり故未詳
此所の能く道
路を知る人四人を我等も接けしり

○此信人の各長き獵銃を携へしり此時「カミダ」
上多尚大犬三頭を我等も与へしり ○此所の家
眷の各此種の一ニ頭を養へり如何しある事い
文多時
の間屢々態此村中も出来れり而しし熊獵の

此國より於て甚好し且快樂なまあり ○其犬の
中も黒色の大なり老犬は甚し速し余の友と
せり但此犬は以前教度の闘ひし其一年を失
ひ及び其体中も種々の摺り剥し処ありを以て
其大胆ありし勇氣ありしを言せり然も其
他の犬は皆同様余を鳴ひし異人とありし多
親しむる事ありし見ゆるあり
我等山をりしとき二時よし終も其平ありあり
達せり此所より俯しし嫩むを降し其下あり
る港の甚壯觀あり景色を得しり ○此所より

其郷導ハ火を付しり馬の側ハ二人を置かせき其他
の者ハ大ニ共ニ余ハ從ふニ断林の森中ニ進
むリ○余雙眼鏡鏡ハ各彈丸を装へし携へし
○此山を掩へる密林中ハ余ニ國々同様の法ハ
炭を燒きし但此処ハ木乃ハ木炭を平地乃
方へ運輸する牛馬の多クハ狭き道を作さ
此道忽チ殆んどハ切れてし新林の生え塞
りし我行路を非ずニ困難ありしハ此處ハ
高々ハのびハ樹林のありし其歩行大ニ
困難ありしあり○或ハ場所々々余ニ種類

の若樹の皮を肥剥ぎし所あるを○是熊乃
業あり但熊密蜂を求むるを得たりしハ記
す或ハ種類ハ其味の草木の根皮乃ハ竹をわらわ
る者あり此竹ハ前々言へる如く其惡種ハ者を
除くハ知人の食料ニあるあり而し余
々々を以て勝れし「カラテ」
此ハ冷やした油乃ハ醋を
加へし食料ニ類ハ割せり
此所ニ於て我等種々の足跡あるを見し此足
跡ハ小泉の迹傍ハ殊ニ甚しし但此所ハ余
又男の子と関きし如き火のあり一匹の足跡

を見たり是此処もやき色の種の状態を遊走し一
説あるなり○我々常々来りし一坪の道色ある老
犬大い其鼻をひく土地も沿ひし頃くすも初め
少く其咽を強言ちし其右全身の毛を倒し去る
及び高声を吠く其聲も其も前よりある断株の森
中へ飛入りし但其犬二時以前より已に騒ぎ
立ちし居たり○分明も其樹枝の動揺する音
及び折る音をききし其樹葉の落ち且つ揺揺も
ききし其犬のあり行く道も知れり○我々
此端を記載ししころさるる所の努力を以て其

行きなり然し其態も既し一路を過ぎ去り而
しし路も我々此草木の稍跡も生せる荒地も未
りし時一圃の斜面の生せる一樹木の下の間
里の穴あり彼犬等皆此穴の周圍を繞り吠
（且つ此穴の入りし居るを見たり○此穴も夥し
く足跡ある我々の首を此穴の入りし説あり
○然れども如何なる被れを獲る事を得可
き○是非の評議を以しし暫く時を移し○
其穴の入りし見ゆる故も余最初も其穴の中
へ匍匐ししころ思ひし其事も得

二箇條の始け起まり○一ツの余の使役を任せる
日本人等半の余を拜するを陪き半の無理を
るを陪きり彼等不幸あり余も出逢ひ
甚しく快よる事を知りて受るありと思
へり而して余は此を以て預けされたり
一ツの當時然るを産せり而して如此時節
の甚く危き事あるを余考察を以てあり○是
人等今一手段を試みんと欲せり然れども余は
の術を妙と思ふありあり彼等は一積の
細末を其穴の口の前より引き来り而してその本

の火を付しり是其烟うう無煙の態を穴より
出さしむるなりあり然れども余の考察せし如
く其然尚出来たりと如何なる其穴甚深
き乎或の外も水道有る乎と由まらあり
此事件の午後三時の事あり而して余我端舟よ
日暮れ来れり殆く一小時路の越る高時少
し早きなり○余は此概語りしに因り甚く
鬱々として帰路を越り善良ある日本人等
の余を接待遇せり且今午の宴を以て極きもの
時節あり故も余もあつて今一度帰る来り

然る時、余レと共獵シし日、三頭の鹿ヲ獲テ、
 事ハ多クあり、其トを其ノ名ヲ呼ビて、余ヲ知ラせ
 たり。○此諸事ハ甚シく實ニ且レ慰ムる如ク也
 へ多ク然ルも、余今一度ニ強ク冬ノ高ク此管
 籥ノ地ノ来ル乎、吾ハ前ニ於テ期シ難キあり

或場所ハ高キ雪甚高ク積マり、余實余
 心ハ滿チし、ゆゑ其ノ雪ヲ一握シし、之ヲ口中ニ入
 せ、り、第二月十日、江戸港ニ於テ其ノ氣ヲ惟ニ甚シく寒
 冷ナり、時ハ同様ニ今、我ノ船ノ上ニ霜ヲ下レり、彼
 雪ヲ余ハ口中ニ生カるニ寒シく、甚シく心ヲ感ズる引

起セり、余晨ノ末ニ雪ヲ踏ミ、事ハ實ニ今

一頁の女ノ宛

より、三年中以前ノ事アリ、
 我等我ノ馬ヲおき、處ニ降リ来リ日暮ニ再ニ村
 中ニ逢ヒり、而シて一碗の茶ヲ喫セ、のち、船
 のり、港ノ方ニ至リ、○おレり、鳥ヲ余レ「か
 んだ」上ノ預メを、然ルも余其鳥ノ見ル見ル
 とき、彼ハ其ノ鳥ヲ大ク困リ、摸ノ様ニ明白ニ見レり、而シ
 て其ノ身ノ罪ヲ逃レり。○余其言語ヲ信セされ、
 も其他ノ之ト甚シく穿テ撃ツせり、是レ遠レる心

よろうと事と始るる事あり○是れは彼郷
導の兵士性急「カミダ」上り竹手語談しし後馬
に乗るる速く馳せ走りしを余は注目せり
○端舟の既も余を待ちし居れる港の海濱に
余の達せし時余彼兵士尚其驕倣の一馬と見
見し但し其兵士の前より一人の男子躍り降り
彼武勇を以てし余を鳥を以てし余は捧けし
めたり其間彼銃の杖を以てし其男を以てし
り強よ其盜痛苦多しを驕りし余の足傍
に匍匐せしに至れり○其兵士此法を犯せる者と

お殺さんとするの勢ひ見し由し余此物に
駭しし是を以てし余其兩人の間に入りし其兵
士のあつちを止めし時其大悪漢の速く逃
せり此れ彼男の逃るるに余喜悦し堪へざりし
也如何しあれは此國の盜の刑甚厳しし毎
度死罪を行く事あり此他余日本の國法
を言ひ發せしあり
此國の物に竹木の入る余の一己の金貨の清算
する事あり亦ゆきし事記載するを要し加
る余此村中の事あり一握のわき金貨を

日暮るる余船舟へ皆返り来り然るも他
の者の余の求め一尺の品物の少許の火薬及
ひ鉛手 鉛 弾 表衣の付く一二の色の白き鈕 鈕 但
此物の如く日本製の服も著きり尋石筆も
あり○屢記載せし兵士の園の中より大株
葱もかしの蒜もを余に贈り此物の久し蔬
菜と見ざりし余も水夫の如きもの實に爽快乃
者多し但其園中より獲りし彼兵士大に倨傲し
たりしあり
此夜余船より余をめぐり針盤の即ちのりり

おれ得し程も甚重霧降あり○翌朝此霧未
だ晴れざる時余「コムモドレ」即ち「ベルリ」の官名ありの許しを得
し「インゲニール」道に開き城壁等と繋ぐ土工を云ふ 一人及び海軍一
人等野鴨を射つたが沼池の方へ去行なり
○我等獵もかくとき早くして身霧尚暗き
さまよつゆつと港の西乃端に至り○此場あり
一二の砂岡海濱の迹傍より櫓とありあり但
此岡の一部は短小の類草灌木生せり我等此如
く狐の足跡を見せり○我等出立ち諸般の
方向より分りり尋ち海軍の左の方余の中

及び「インゲニール」上同右の方よりわたりてサ〜進
る行あり○我々左翼に於て直に「意を付」と叫
ぶ声響きあり而〜その後直ちにまゝ右の方よ
り於て声の響きあり○我々左側より狐を振りおせり
而〜彼沼池よりらん〜時「インゲニール」上同放
火せり彼狐首より倒れ死に〜逃り〜
直に其狐再び死に上り其尾を〜逃り去りし
○其時の間「インゲニール」上同再び装束せり此
時我々二人は凡そ前二百歩程のありあり
他の狐を追ひ行きたり○其後暫時〜少く

の距離のありに於て薄き落葉の動揺するを霧
を透〜見たり即ち「パフ」口より息とびあがり
と吹く音
落り再び死に上り「パフ」上同再び装束せり
あり而〜其首を暴き怒り灌木を喰ひ其首の
其首を〜土地と荒〜居たり又「インゲニール」
上同の草中よりあ〜あり○殆んど同時より余
ら〜一端より第二銃聲の音響きあり其の響
き〜再び装束〜以前より認むる狐を振りお
け及び今其狐を殺せ〜「インゲニール」上同のあり
あ〜銃の響きあり○海軍の高角砲一發を撃

出せり 魚も甚不幸なり 之を所を得たり
我等不意に狐と及び其少き北狐を捕へり
り其二頭の狐は余の思ふ如くあれど華盛頓合
國の首 府 あり 動物改良家の歎類を集め置く所の
飾りともありき 養育する 歎種の一種とあり
此狐の色は帯紅色なり 其頭及び體の形状
半は南「アメリカ」洲の「コイアタ」歎名未詳 及び半は通常
紅色の狐と同じき者あり 我等此獲物を心
く甚く相悦び 湯酒せる 雜草を以て坐して
而して 船中の「ベスコイト」食物の名 及び塩肉を食せり

但其味は焼きたるまでの雑子の肉及び白色の新鮮
鮮ある蒸餅を食して如き味ひを感せり
此雨霧は午後第三時迄暗きままに 強よとの霧暗
くよ至りて我等より少く距離の短く我端
舟一艘勉強して 漁獲を感せり 但其人員は今午
飯を食せり ○其鍋中にある新鮮の魚を以て 飯素
ある午飯を食せり 我等の至りて 心を起さるり
し其の皆人の知る事あり
翌日霧甚深く 我等箱館を退帆せり 松前
峡 松前と三厩との間とあり 於て二時より久く碇泊せり

よ至れり○此地方々如北西勢の五月六月
 七月の三々月の中より屢降するあり而して
 通常烈しき東風と共に来り或は其東風の吹く
 前も降るあり○然るも余の箱館の土
 地の形勢を以て其氣候の人民を壯健よする
 者とせり余の此説の此処にて多く壯健ある者
 も出逢ひし事を以て益確然あり
 下田港へ帰り来り時我等海路の唐丹を繞り
 下田^以前我等の箱館を往きし時の路も固く
 海路を航せり

コムモトニベルリ
 日本官入ト會談
 圖ノル

千八百五十四年第六月廿八日「ミスシスレツピ」
 船の船中
 此月の第七日午時我等再び下田港へ入津せ
 り○此処へ至る以前より甚盛あり○帝
 國の諸官員此時の因も此処へ来り居るあり
 其官員の其國の習俗も從ふる駁しき從屬の者
 を從へ来たり其箱館の此小街中も充滿せり但
 其旅館の各其戸前も懸けたる多くの幕及び名
 札も由り勇ましく見へり
 我等の金貨の定貨も其の總ての目錄を制せ

我等の金貨の定貨も其の總ての目錄を制せ

一所の薪水食料等の價の定めも互に通用せし
容量及び重量の評議及び取極めも就く其の
時を費せし如行とありて日々種々の難題出
るを以てあり然れども其件々終るに皆勝を得
の事を得たりあり

第十五日「コムドレ」上り其諸官員も己れが官
職を帯ひて終りの會合をせり但し此會合
ハ甚盛大の儀式を調へて上陸してあり○我
等三百人許の兵卒も四箇の大砲をも陸の上
たり畫圖の如く美麗な群ある一連の兵卒の美

麗なる道を沿ひて下田常泉寺へ此の盛大なる
會合を成せしありての寺院の名あり」の言へ率
て行く景色は甚だ壯觀なる事あり但し此兵
卒の壯麗なる畫圖の如き山々も小衝の意も適
せし地勢もよく固く強し其壯觀ありて増せり
○此渡儀正しき會合の以前に記載せし事も多
く因らざるを以て再び此の書載せざるあり○余
如何に日本に青楓を好まざるありて
遠く此寺より去り及び諸將の中一人を砲隊
の首へ遣せし但し此人の會より多く日本に美

あり食物を細密に知らむ事を好む人あり○
余も今家の外より出づ時きあり大砲隊の一群を
の羨慕ありし時多き樹木の下に備へあり
音樂の爽快も之を奏せり而して下田住民四分
の三は相ひ集りて多しおし合ひ皆意を注ぎ
て聴くし止まれり但其間より若き娘あり
婦人多く難きあり○一向の船乗渡世より豊麗な
る婦人の身しこを愛する情を顯せし時
希ありし心余も天授の賜を受けんと欲する
也 余糖菓をあり得し細密に焼く菓子を見

物の婦人も方ちありし彼其各孔し余も樹菓
あり草木の花を贈り余是を以て身得し
花を再び彼此にあり余も氣ありし婢女の頭髪
挿しし或は嘲り笑ひありし其樹菓を他の婢女に
投げ付も其能是の婦人の皆常より貪りし
余も應せり○余如此に嘲りし其堂中の乳
儀正しき席上の二つを敷難法ありし時を過
去より其面白し時を夢せり而して終り鼓声
ありし其卒を呼ひ集りし時余も砲手を再び集む
るあり大も勞せり但し此砲兵皆其前の持前の

法通りの礼節を失ふとさるるあり○何れの人と雖
儀正しきことを務まらざりしは余の語を待
さるるあり

最も末は兵卒の運動をせり我等の大砲を致出
し及び歩卒の運動の迅速なるは法の正しき事
とせし日本人の驚む強あり

其後一二日過ぎし「コムモドレ」名 日本の貴き客人
「ミスミスエヒ」号 船中より離送を催せり但し
余此後八日の間再び此船に居たり如何なるに
此送せし心来「コムモドレ」此船を再び提督

の船に寄せしあり○我日本の諸友人の余を
よ訣別の辭を述べし如く實は其心中の信を顯
せし

第二十四日「コムモドレ」堀の掃崎に埋葬せし水夫
は海卒との墓をよ書記するを免ふ今一回余を
上陸せしゆあり○其水夫は「ホウハツタ」号 船の帆
折より死す之より由り終に死に至りし者あり
海卒の我等江戸港よりありし時腦癩腫より死す
せり而して余を以前より如く去りし横濱
より葬りの礼を行ふに者あり○條狗の

取り極め調ひし時其者を掘り出し他の官も後
し及び下田へ持ち来たる者免よ「セルゲアント」館二人
を日本船より横濱へ遣せしあり但し其死入の
更よ之を下田に埋葬せり○墓表の石は鼠色の石灰
石を以て其細密よ且多し麗し遠きり而して
其の墓の一群の樹林の間ありし其の快き感
しを記せり

昨日午後我等再び港口ありし今一回碇を下せ
り○此處より於て今一回我等よ日本の方入の来
訪せるを見たり但し其日本人の我等の衆入よ

些少の品物を徴しし贈る者あり○余下田
奉行の下役の者よ其時ありし相交りしを
既よ言しや曾や知らざりし○合原借三郎の眞実
よし其正しき男あり其齡の僅三十歳位の者
あり但此人の殆んど速に和蘭語を語しとあり
し且甚勉強し「イギリ」語あり又大に進む
人あり○余當時所持せし「ストレイト」叙の大藥
地圖は蘇州合原の意を遍し及び彼を教ふる事
得し其丁字を余よなめし周旋せしを以て此
地圖は和蘭語英古語對譯の辭書と并獨乙語

よく作まる短き詩一篇を贈るに此侍ハ「イキリス」
常田の語より翻譯せしあり

我等訣別とせし時合原中余の物を贈るに但
其贈り物ハ多くの羨麗なる烟草及び之に属せる
烟草ハ華小切の製より乃ハ青貝を包きし小箱乃
筆箱とあり ○彼も亦詩一篇を作り而し其
日本の紙ハ和装語の翻譯と言ふかひあり

第二十五日船人より南西の暴風より荒れ
し是を以て我等此風降る港より甚困難也
又○然る事「コムモドレ」同上の被此の島嶼の間を測

量せんは欲し故に我等忍ん好天氣と候て
り ○幸り此を以て之より一日既ハ風止
し而し 第二十七日の朝平明に通信官より
を以て 争端を聞くとする迄の間に先日本の海
岸を恙なく出帆せり
余此終りありと考案する 総行の大畧を悉く
識りしこと能くさうし而し此も亦如何
し 我等此處より来りし事及び如何に我等の
目的を達せし事の疑問を余自ら記し

「コムモドレ」名「ペルリ」名の曾し「アメリカ」國の物

任せられし者も猶れある水師提督の一人より
合衆國政府の命より由り尊むべき一隊の軍
艦の先頭に進むる日本方へ遣せし者あり
是れ我船等此危険なる海岸あり難航に達
しし時十分を保護し及び救助せしむるため一
の薪水炭或諸食料又必要の具を求むる船此
間之の諸品を捨てたるため及び強うありたる事
角里伏尔泥亞「アメリカ」の地名ありと支那との間我蒸
氣船のふえの炭を預め備へ置しがの一港を
得むるを得ざるためあり○「コムモドレ」「ヘルリ」

ハ自己の全權の證書と合衆國大統領の書翰と
を日本國帝より渡さんため来り而し其剛毅
ありし及び其程を事と由り地
球中の今迄よりとさる人民の住せる一國を
を其理も其前と併議をなさしめ而し少くも
暴行ある事ありし其ゆゑ暴行を以て希望せ
る正當の望を通りより多きあり我等の被船ハ
日本國の何れか處に迷入るとも救助と保護と
を得るあり下田箱館長崎及び他の一年の間
我等より定めし一港の皆「アメリカ」諸

船隻の多きと開き十分多きの分是より薪
水諸種の食料及び炭を備へ金銀或は品物といふ
之を買ひ取らざりし而して上は記載せる處の諸街
の皆周圍十里の間隨意に遊歩せしきあり○我
等の死人を耶蘇の法式に從ふに埋葬せしむる而
して佛法の僧徒等々我等の側より其礼拜及
び唱ひしを以て其を行ふに我等の鐵軌道傳信器
及び其他の諸器械を日本國地へ贈り彼之
を是れとて且つ驚きあり而して此時帝國政府の
此必要ある條明の器械の用法を日本人も教ゆる

事を西墨利加に詳容せる一法を以て其繁勢
あり○我運送船一隻は日本人の夥しき贈り
物を積み入るに充滿せり而して其帝國より
書せし令衆國大統領へ十分の尊敬を呈せし返
簡は今既し道より上り
此簡單なる事件は如何に我其他の事と加ふる
を要せし如付ありしとて事件は自ら明了なれど
あり○「コロモドレ」^{ベルリ}「^ト自己の譽を高く揚
ぐる者も余の弱き声音を要さざるあり○彼
自ら其姓名を以て金字を以て千歳の正史に載せし

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be stylized or abbreviated. The lines are roughly as follows:
Line 1: 10 characters
Line 2: 10 characters
Line 3: 10 characters
Line 4: 10 characters
Line 5: 10 characters
Line 6: 10 characters
Line 7: 10 characters
Line 8: 10 characters
Line 9: 10 characters
Line 10: 10 characters
Line 11: 10 characters
Line 12: 10 characters
Line 13: 10 characters
Line 14: 10 characters
Line 15: 10 characters
Line 16: 10 characters
Line 17: 10 characters
Line 18: 10 characters
Line 19: 10 characters
Line 20: 10 characters
Line 21: 10 characters
Line 22: 10 characters
Line 23: 10 characters
Line 24: 10 characters
Line 25: 10 characters
Line 26: 10 characters
Line 27: 10 characters
Line 28: 10 characters
Line 29: 10 characters
Line 30: 10 characters
Line 31: 10 characters
Line 32: 10 characters
Line 33: 10 characters
Line 34: 10 characters
Line 35: 10 characters
Line 36: 10 characters
Line 37: 10 characters
Line 38: 10 characters
Line 39: 10 characters
Line 40: 10 characters
Line 41: 10 characters
Line 42: 10 characters
Line 43: 10 characters
Line 44: 10 characters
Line 45: 10 characters
Line 46: 10 characters
Line 47: 10 characters
Line 48: 10 characters
Line 49: 10 characters
Line 50: 10 characters
Line 51: 10 characters
Line 52: 10 characters
Line 53: 10 characters
Line 54: 10 characters
Line 55: 10 characters
Line 56: 10 characters
Line 57: 10 characters
Line 58: 10 characters
Line 59: 10 characters
Line 60: 10 characters
Line 61: 10 characters
Line 62: 10 characters
Line 63: 10 characters
Line 64: 10 characters
Line 65: 10 characters
Line 66: 10 characters
Line 67: 10 characters
Line 68: 10 characters
Line 69: 10 characters
Line 70: 10 characters
Line 71: 10 characters
Line 72: 10 characters
Line 73: 10 characters
Line 74: 10 characters
Line 75: 10 characters
Line 76: 10 characters
Line 77: 10 characters
Line 78: 10 characters
Line 79: 10 characters
Line 80: 10 characters
Line 81: 10 characters
Line 82: 10 characters
Line 83: 10 characters
Line 84: 10 characters
Line 85: 10 characters
Line 86: 10 characters
Line 87: 10 characters
Line 88: 10 characters
Line 89: 10 characters
Line 90: 10 characters
Line 91: 10 characters
Line 92: 10 characters
Line 93: 10 characters
Line 94: 10 characters
Line 95: 10 characters
Line 96: 10 characters
Line 97: 10 characters
Line 98: 10 characters
Line 99: 10 characters
Line 100: 10 characters

